

在宅療養者に対する介護支援専門員の支援事例集

本事例集は、在宅療養をされている新型コロナウイルス感染・感染疑いの方々に対する支援の対応経験を共有し在宅療養者に対するケアマネジャーの判断及び支援方法のエビデンスをつくることを目的に、ケアマネジャーからご投稿いただいた在宅療養者の支援事例を掲載しております。事例の掲載にあたっては、個人情報保護のために対象者の方を特定できる情報をご記入いただかないようお願いしております。なお、本事例集についてのお問い合わせ等は下記連絡先までお願いいたします。

大阪市介護支援専門員連盟

E-MAIL : cm.federation.osaka@gmail.com

HP : <https://shikairen.com/>

事例の記載項目

- ①事例タイトル
- ②事例対象者の概況（地域、年齢、性別、要介護度）
- ③事例対象者の発症日または濃厚接触者となった日
- ④事例対象者の基本的な状態像（利用者の主な疾患、障害、心身機能、家族構成、住環境、経済状況、日常的な生活の様子など）
- ⑤従来の支援の概要（自宅療養となる前のケアプランの主な内容、介護サービス等の利用状況、家族支援の状況など）
- ⑥在宅療養に至った経緯
- ⑦在宅療養となったことで新たに発生した利用者の生活上の課題
- ⑧新たに発生した課題への対応
- ⑨医療機関との連携
- ⑩事例のその後の展開と支援の評価
- ⑪在宅療養者の支援にあたり介護支援専門員にとって特に困難であったこと（複数選択）
- ⑫在宅療養者支援について行政に特に要望したいこと（複数選択）

事例タイトル

事例の特徴を示す表題※50字以内

キーパンソンのコロナ陽性に伴うサービス連携と情報共有について

事例対象者の概況(地域)

自宅療養支援の対象となった利用者が居住する地域

大阪府

事例対象者の概況(年齢)

80歳代



事例対象者の概況(性別)

男性



事例対象者の概況(要介護度)

要介護 4



対象者の発症日または濃厚接触となった日

利用者が新型コロナウイルス陽性となる症状をはじめて呈した日または濃厚接触となった日

YYYY MM DD

2022 / 01 / 20

事例対象者の基本的な状態像

利用者の主な疾患、障害、心身機能、家族構成、住環境、経済状況、日常的な生活の様子など※500字以内

疾患) パーキンソン病、心因性膀胱、アルツハイマー型認知症、左大腿骨骨折後、可動域制限と歩行困難な状態にある。移動は車いす。 家族構成) 若い頃に離婚。以後一人で生活。近隣に住む妹、姪が支援を行っている。自社ビルの1F部分が住まい。 経済状況) 年金生活、貯蓄あり。日常生活) デイサービスに出かける以外は自宅内で過ごしている。もともとは外出が好きで買い物や近隣の喫茶店で食事をするなどしていた。

従来の支援の概要

自宅療養となる前のケアプランの主な内容、介護サービス等の利用状況、家族支援の状況など※500字以内

往診（2回/月）、訪問看護（医療 10回/週）注入、尿量や正常観察、排便コントロールの管理）、訪問看護（医療 リハビリ 2回/週）PTによる日常生活動作訓練、STによる嚥下訓練、通所介護（5回/週）、福祉用具貸与（特殊寝台、付属品、介助式車いす、支柱台、スロープ 妹さん、姪（夕方より訪問して見守りを交代でおこなっている）

在宅療養に至った経緯

利用者が新型コロナウイルス陽性又は濃厚接触者と判定され、自宅療養に至るまでの経緯※500字以内

1/10 8:00妹さんより連絡。37℃台の発熱とバルーン留置部分より出血あり。訪問看護師にも連絡したが、救急依頼するよう伝える。A病院へ救急搬送され、軽度の肺炎と尿路感染と診断。そのまま入院となる。その後、経過も良好となり1/24退院前カンファレンス開催予定だったが、当日妹さんより連絡。微熱あり。受診結果、コロナ陽性。退院延長となる。1/26 A病院MSWより「当院もコロナ患者の受け入れしており、これ以上入院の延長は厳しいです。同法人の老健へ受入可能が調整中です。妹さんへも連絡し状況伝えます」。1/27 9:30 A病院MSWより「判定会議結果、B老健の受け入れ大丈夫です。B老健の相談員と調整をお願いします」この頃、勤務する社員が1/22コロナ陽性と連絡あり。濃厚接触者に該当せず、症状なかったが社員全員1/23PCR検査センターにて実施。結果出るまで自宅待機であった為、自宅からB老健へ連絡し、情報提供行う。調整の結果、1/28に退院し老健ショートステイ利用することとなった。妹さんへ連絡。妹さん是对応できない為、妹の長女へ依頼。

在宅療養となったことで新たに発生した利用者の生活上の課題

※500字以内

今回のケースは利用者のキーパーソンがコロナ陽性になったことにより、在宅生活が維持できなくなったこと。

新たに発生した課題への対応

介護支援専門員の動きや代替サービスの調整、特に気を付けて対応したことなど※500字以内

今回、入院先から老健へ連携してもらい、在宅復帰までの調整ができたケースだが、感染拡大の状況のなか、他のケースについてもこういった調整ができればと思う。また、ケアマネジャーも自宅待機となることを想定して自宅においても調整ができるよう準備が必要（ICT活用も含めて）。

医療機関との連携

自宅療養者の支援にあたり医療機関（かかりつけ医、病院、訪問看護、薬局等）との連携はどのように行ったか※500字以内

在宅療養に至った経緯と同じ。

事例のその後の展開と支援の評価

その後の利用者の状態像の変化と支援の評価※500字以内

B老健を2/14に退所。以降、自宅での支援を再開。

在宅療養者支援にあたり特に困難だったこと

在宅療養者の支援にあたり特に困難と感じたことを以下の項目から選択してください（複数回答可）

- ☒ 介護支援専門員自身の感染防止
- ☒ 利用者の家族等周囲への感染拡大の防止
- ☒ 迅速な検査や治療等必要な医療の調整
- ☒ 利用者が重篤化した場合の搬送や入院受け入れ
- ☐ 利用者に介護サービス等を提供する事業者や介護職員の確保
- ☐ 介護支援専門員自身による利用者への生活援助や身体介護の提供
- ☒ 介護支援専門員が判断に迷った場合の相談相手
- ☒ 介護支援専門員の通常業務との両立や休日確保
- ☐ その他:

在宅療養者支援について行政に特に要望したいこと

在宅療養者の支援にあたり行政に対応を求めたいと思うことを以下の項目から選択してください（複数回答可）

- ☐ 介護従事者へのワクチン接種の推進
- ☒ 介護従事者に対する迅速なPCR検査、抗原検査の体制整備
- ☒ 在宅療養者に往診可能な医療機関の整備
- ☒ 在宅療養者の通院手段の確保
- ☒ 在宅療養者が重症化した場合の搬送体制や入院受け入れ先の整備
- ☐ 在宅療養者のための介護等のサービスの整備や人材確保施策
- ☒ 在宅療養者の支援についての相談機関の整備
- ☒ かかりまし経費の補助や介護従事者の休業補償、危険負担手当などの経済支援
- ☒ PPE、消毒用物品など必要な物資の提供
- ☐ その他:

投稿者氏名

※事例掲載時に公開されます（匿名可能です）

匿名希望。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。

Google フォーム